

## 県北地域

対象市町：佐世保市、平戸市、松浦市、小値賀町、佐々町

### 1. 地域データ

県北地区

面積	県北地区	総面積に占める割合
総面積 (ha)	85,039	—
うち耕地面積 (ha)	11,661	13.7%
うち森林面積 (ha)	42,874	50.4%
世帯数	県北地区	総世帯数に占める割合
総世帯数 (戸)	132,853	—
うち総農家数 (戸)	8,859	6.7%
うち主業農家 (戸)	1,301	1.0%
うち林家数 (戸)	3,270	2.5%
人口	県北地区	総人口に占める割合
総人口 (人)	337,599	—
うち農業就業人口 (人)	8,608	2.5%

県北地区

販売農家	県北地区	県内構成比	県
販売農家戸数 (戸)	6,132	24.6%	24,887
主業農家戸数 (戸)	1,301	16.5%	7,901
準主業農家戸数 (戸)	1,751	29.0%	6,041
副業的農家戸数 (戸)	3,080	28.1%	10,945
耕地	県北地区	県内構成比	県
耕地面積 (ha)	11,661	23.4%	49,900
田 (ha)	7,216	31.1%	23,200
畑 (ha)	4,436	16.6%	26,700
水田整備率 (%)	43.2	—	52.8
畑整備率 (%)	29.6	—	23.7
耕作放棄地面積 (ha)	2,628	22.4%	11,741
民有林	県北地区	県内構成比	県
人工林面積 (ha)	16,371	18.0%	91,128
4~9歳級 (ha)	7,504	15.2%	49,403
10歳級以上 (ha)	8,675	21.7%	39,965

### 2. 農林業・農山村の概要

#### 現状と課題

県北地域は中山間地や多くの離島・半島からなり、耕地面積は長崎県の約4分の1を占め、水田の割合 (62%、県平均46%) が高く、森林は総土地面積の51%を占め、利用可能な人工林 (民有林46年生以上) の割合は53% (県平均44%) となっています。農業は水稻に肉用牛、みかん、野菜、花き、茶、葉たばこを組み合わせた複合経営が多く、林業は人工林の間伐を主体とした木材素材生産と特用林産物である菌床しいたけの生産が行われています。また、農家民泊など都市との交流も盛んな地域です。

品目別には、水稻は品質向上のため近年導入された高温耐性品種の広域の普及が課題です。水田は水稻単作が多く、裏作活用などによって水田の高度利用を図ることが必要です。

西海みかんは、ブランド率が高く高単価で取引されており、栽培面積や販売額は年々増加しているものの、生産者数は減少しているため1戸当たりの経営規模拡大が課題です。

いちごは、高単収品種「ゆめのか」が導入されていますが、単収に個人差が見られるため、品種に応じた技術導入・確立による収益性の向上が必要です。

きくは、市場からの産地の評価は高いものの、今後の高齢化の進展による生産者数の減少が懸念され、出荷量の確保が課題です。

肉用牛は、子牛価格が堅調に推移しているものの、高齢化による廃業や飼料の高騰等により産地の飼養頭数は漸減しており、飼養農家の規模拡大が課題です。また、畜産全般において家畜伝染病の発生予防や慢性疾病などの生産阻害要因の除去、あわせて畜産物の安全性を確保することが必要です。

農産物の販売は、主に市場流通ですが、安定した価格で取引できる契約栽培が増加しています。直売所が多数あり、農産物の加工品販売も増加し、6次産業化に取り組む農業者が増えつつありますが、多様な消費者ニーズにあった商品開発や販路拡大が課題です。

菌床しいたけは、近年生産施設を増設しましたが、平戸菌床しいたけに対する市場の需要は旺盛であり生産量の拡大が課題です。木材は、供給可能量が増加しており、今後用途に応じた素材安定供給体制の構築が必要です。

地域農業の担い手は、認定農業者932名で、高齢化に伴い減少傾向にあり、産地の維持・拡大には担い手の規模拡大が必要です。あわせて労力不足が懸念されるため労力支援体制の整備も急務です。また、毎年20名程度の新規就農がありますが、さらなる確保・育成と新規参入者の受入体制の構築が必要です。一方、担い手が不足する地域では新たな作業受託組織などの設立と既存組織の育成・強化が課題です。

林業専業作業員は平均年齢53歳（県平均50歳）と高齢化が進んでおり、新規林業事業体の参入促進と新規林業就業者の確保と育成が急務となっています。また、生産から販売まで見通した地域森林経営をプランニングする人材の育成も必要です。

農山村集落では日本型直接支払制度を活用した多面的機能の維持が必要であるとともに、老朽化したため池や、山地災害危険地区の対策による安全・安心の確保が課題です。

### 3. 県北地域の農林業・農山村の将来像

#### 将来像

優良な農地を集約し生産性を高め高品質な農産物の生産拡大を図るとともに、中山間地を利用した放牧を進め畜産経営の大規模化を図り、農業所得の向上を目指します。

農村地域において受託組織や集落営農により農地の活用や保全を図り、農産物を活用した6次産業化を進め、直売所等での売り上げ増加を目指します。また、新鮮な農産物と地域資源を堪能してもらうため、都市からの集客を進めます。

ため池整備や山地災害対策を進め、安全で安心して暮らせる農山村集落を目指します。

木材生産量の拡大を図り、新規林業事業体の参入による林業事業体の雇用就業者の増加を目指します。

また、木材のカスケード利用を進め販路の拡大を図り、林業生産額の増大を目指します。

広範な県民による里山管理を進め、健全な森林保全を目指します。



## 4. 基本的振興方向

### I 収益性の向上に向けた生産・流通・販売対策の強化

#### I-1 品目別戦略の再構築

##### ①水田の活用による土地利用型農業の展開

- 近年の温暖化傾向のなかで優れた品質を得られる高温耐性品種（「にこまる」、「つや姫」等）の生産安定技術確立により、作付面積拡大を図ります。
- 基盤整備された水田での暗きょ排水等の整備、機械化一貫体系の導入や労力支援組織の設立によって加工用たまねぎ等の作付面積拡大を図ります。
- WCS（稲発酵粗飼料）用稲の優良品種導入やコスト低減技術の確立により、作付面積拡大を図ります。
- 集落営農組織の設立を推進し、既存の集落営農組織の法人化や規模拡大などによる組織経営の改善を支援することで、水田のフル活用を目指します。

##### ②次世代につなぐ「西海みかん」産地の振興

- みかんは、振興品種への計画的な新改植やシートマルチ栽培技術の徹底により高品質果実の安定生産、計画出荷を実現し「西海みかん」ブランドの継続を図ります。また、省力機械の導入や基盤整備を推進し、担い手への農地集積による産地強化に取り組めます。



シートマルチ栽培による高品質果実の生産状況

##### ③生産性が高い施設野菜産地の育成・強化

- いちごは、新規就農者の確保や若手農業者の育成とともに、高単収品種「ゆめのか」の技術確立を図ります。また、環境制御技術（炭酸ガス発生装置、モニタリングシステム等）の導入促進により収益性向上を図ります。
- アスパラガスは、新規参入者及び低単収農家への重点指導により産地の平均単収向上を目指します。



「ゆめのか」高設栽培状況

##### ④省力化による露地野菜産地の拡大

- ブロッコリーは、栽培管理技術の向上と生産安定を図るとともに、作業省力化に繋がる機械導入・共同選果を検討し、産地拡大を図ります。

### ⑤きく生産者の規模拡大と新規就農者の確保・定着

○きくは、産地の出荷量を確保するために、施設や省力・省工設備導入により既存生産者の規模拡大を推進するとともに、新規栽培者の確保や栽培技術向上により早期定着を図ります。



きく省力設備（自動開閉等）

### ⑥地域の特性を生かした工芸作物（茶・葉たばこ）の推進

○葉たばこは、地域の担い手となる中核農家への生産圃場の集積や省力機械の導入等を推進し、産地強化を図ります。  
○茶は、担い手への茶園集積や茶工場再編、作業の共同化を推進し、担い手の規模拡大を図ります。

### ⑦畜産クラスターの取組による日本一の肉用牛産地づくり

○新規参入者や中核農家等に必要な施設・機械等の整備、定休型ヘルパー組合や粗飼料の収集・販売を担う粗飼料流通組織の設立によって、肉用牛飼養農家の段階的規模拡大を図ります。  
○未利用地を活用した放牧技術やICT（情報通信技術）を活用し、中大規模経営体の育成を図ります。



多頭飼養肥育牛舎

### ⑧人・牛・飼料の視点での酪農経営の基盤強化

○飼料生産や飼育管理の外部化や省力化機械等の導入により労力の低減を図るとともに、乳牛が能力を十分発揮できる飼育環境への改善など、人・牛にやさしい酪農経営を推進します。

### ⑨経営管理能力の向上による生産性の高い養豚経営の確立

○繁殖成績の改善や衛生管理の徹底により所得向上を図るとともに、地域住民に配慮した環境対策の励行により畜産環境問題の未然防止に努めます。

### ⑩地域の森林資源を活用した特産林産物（菌床しいたけ）の振興

○1菌床当たりの収量を増大させる技術導入を支援し、各生産施設の栽培条件（温度、湿度管理等）の改善指導、施設整備の提案などを行い、産地の生産量増大を図ります。

## I-2 品目別戦略を支える加工・流通・販売対策

### ①環境に対する負荷の少ない農業の推進

○安全・安心な農産物生産および有機農業等を推進するために、化学肥料や農薬等の使用量を削減する技術が必要です。環境に対する負荷の少ない農業への理解および土づくりやIPM技術（総合的病害虫・雑草管理）の導入推進を図ります。



なす天敵利用防除の取組

### ②木材の有利販売の推進

○製材用、輸出用、木質バイオマス用等の需要に対し安定供給体制を構築し、協定取引等の有利販売を推進します。

### ③防疫体制の確立による畜産物の安全確保

○市町・関係団体と連携した迅速・的確な初動防疫体制の確立を図ります。  
○飼養衛生管理基準の遵守指導を行うとともに、各種検査・調査により慢性疾病などの生産性阻害要因の除去に努めます。  
○農場におけるHACCP（危害分析・重要管理点の継続的監視・記録する工程管理システム）の考え方に基づく衛生管理手法の導入・定着推進と動物用医薬品の適正使用指導を行います。



防疫作業演習状況

## I-3 地域資源を活用した農山村地域の活性化

### ①地域資源を活用した6次産業化やグリーン・ツーリズムの推進

○様々な地域資源（農産物、地域性、人材等）を活用した特色のある直売所の運営方法や多様化する消費者ニーズをとらえた6次産業化を推進します。  
○地域に根ざしたグリーン・ツーリズム実践組織と連携し、農作業体験メニューなどの充実を図ります。



土谷棚田火祭り（松浦市福島町）

	現況	目標	現況年度
水稻高温耐性品種の作付面積 (ha)	462	800	H26
加工業務用たまねぎの収量 (t/10a)	4.3	6.5	H26
集落営農組織数(特定農業団体・法人等)	10	23	H26
「西海みかん」新改植面積 (ha/年)	10.7	10.0	H26
「西海みかん」ブランド率 (%)	82	84	H26
いちご「ゆめのか」の作付面積 (ha)	8.5	15.8	H26
アスパラガス単収 (kg/10a)	1,500	2,000	H26
ブロッコリー栽培面積 (ha)	54	70	H26
きく栽培面積 (ha)	9	10	H26
花き法人経営志向農家数 (戸)	3	6	H26
先導的茶経営体 (戸)	3	5	H26
茶栽培・加工の協業・法人のべ組織数 (組織)	3	5	H26
繁殖母牛30頭規模以上の経営体数 (経営体)	53	68	H26
長崎型新肥育技術実施農家数 (戸)	3	8	H26
分娩間隔 (日・肉用牛)	396.7	390	H26
放牧実施頭数 (頭)	1,143	1,267	H25
哺乳ロボット等(省力化機械)を導入する経営体の増加 (経営体)	—	1	—
酪農経営における飼料作物の作付面積 (a/経産牛1頭)	14.2	21.8	H26
母豚頭数 (頭)	600	620	H26
菌床生しいたけ生産量 (t/年・生換算)	852.1	1,000	H26
有機・特別栽培の実面積 (ha)	110	160	H26
木材素材生産量 (m³/年)	21,640	33,000	H26
農産物直売所、グリーン・ツーリズムの売上額 (億円)	29.41	32.43	H26

## II 経営感覚に優れた次代の担い手の確保・育成

### II-1 新規就農・就業者の増大

#### ①意欲をもって取り組む人材の確保・育成

- 就農支援センターを中心に関係機関と連携し、就農に向けた支援を行うことにより将来の農業担い手を確保・育成します。
- 新規就農者の安定した所得確保のために重点的に支援を行います。
- 多様な新規参入者を受け入れる産地・団体の体制を整えます。

#### ②林業就業者の確保・育成

- 新規就業者の定着に向けて資格取得を促進するとともに、森林施業、森林作業道、採材等の技術向上、生産性の向上に努めます。

### II-2 個別経営体の経営力強化

#### ①企業の経営体の育成

- 農業所得1,000万円規模経営体を育成するため、経営規模の維持・拡大や6次産業化など経営の多角化に取り組む経営体を支援します。
- 「企業の農業経営体」にステップアップするため法人化の取組を支援します。

#### ②森林施業プランナー等の育成

- 林業事業体において新たに森林施業プランナーを養成するとともに、現在活躍するプランナーには技術指導や研修会の受講等により精度の高いプランニング技術の向上を図ります。

### II-3 担い手確保のための生産基盤の強化

#### ①大規模化・省力化を支えるほ場の基盤整備推進と施設・機械整備推進

- 中山間地域における水田の基盤整備を行い、生産性の高い優良農地を確保します。また、樹園地(みかん)地帯において規模拡大や農地集積が円滑に進むよう、畑の基盤整備や畑地かんがい施設整備を実施し生産性の向上を図ります。
- 規模拡大志向農家へ省力化技術導入を重点的に支援し、規模拡大を進めます。

#### ②担い手への農地の集積と耕作放棄地の解消

- 農地中間管理事業を活用して担い手への農地集積を促進します。
- 農地の有効活用のため耕作放棄地の選別と解消を進め、地域協力によって耕作放棄地の発生を抑制します。

#### ③労力支援組織の育成

- 農家の労力不足を解消するため、既存組織の円滑な組織の運営を図るとともに、新たな労力支援組織の設立を推進します。

### II-4 地域を支える多様な担い手の確保・育成

#### ①機械利用組合や作業受託組合の育成、活動継続

- 水稻、畜産や露地野菜において規模拡大やコスト低減を図り、担い手が不足する地域では農業を支える組織として新たな組織の育成を行うとともに、既存組織の活動継続を支援します。

	現況	目標	現況年度
新規自営就農者数(人/年)	20	40	H22~26平均
新規雇用就業者数【農業】(人/年)	—	37	—
新規雇用就業者数【林業】(人/年)	4	6	H22~26平均
農業所得1,000万円以上が可能な経営規模に達した経営体数(経営体)	18	78	H26
農業法人数(法人)	50	81	H25
うち集落営農法人数(法人)	5	11	H25
林業施業プランナーの養成数(人、累計)	3	6	H26
水田の整備済面積(ha)	3,118	13	H26まで
畑地かんがい施設整備済面積(ha)	1,519	63	H26まで
担い手への農地集積面積(ha)	2,617	5,600	H25
耕作放棄地の解消面積(ha)	724	460	H25
労力支援システム数(組織)	5	8	H26
機械共同利用組合、作業受託組合数(組織数)	38	44	H26

Ⅲ 地域の活力と魅力にあふれる農山村づくり

Ⅲ-1 地域別・産地別の戦略の展開

南部地域

みかんのブランド維持と野菜・花きの生産性向上による園芸産地の振興(佐世保市南部)

○西海みかんブランド維持に向けた担い手の経営規模拡大並びに野菜・花きの安定した生産・販売により農業所得の向上を図ります。

目指す取組

- みかんの高品質生産技術の徹底
- 園地の基盤整備等に伴う意欲ある担い手への農地集積
- 野菜・花きの増収及びコスト低減による生産性向上
- 野菜・花きの新規品目導入・新産地育成
- 省力化機械の導入や労力確保システム改善



させば温州の栽培状況

水田活用と繁殖牛規模拡大、茶生産効率化による中山間水田地域の振興(佐世保市北部)

○集落営農組織の特定農業法人化、水田における生産性向上、世知原茶の作業の集約・分業化による高品質生産及び繁殖牛の段階的な規模拡大に取り組み、農業所得の向上を図ります。

目指す取組

- 水稲高温耐性品種の導入による高品質米の生産
- 飼料作物・WCS用稲の作付拡大
- 水田作付けの施設野菜・花きの生産性向上

- 少量多品目生産による地域内消費の推進
- 世知原茶の機械化による省力化
- 茶園の集積・茶工場再編推進や作業の分業化による茶の高品質化
- 繁殖牛の放牧拡大
- 粗飼料流通組織の設立による労力軽減の推進

繁殖牛の規模拡大による離島地域の振興(佐世保市島しょ部)

○繁殖牛における放牧や労力確保による規模拡大により、島での安定した所得確保を図ります。

目指す取組

- 繁殖牛における放牧とヘルパー組織の強化
- 新規就農者を主体とした施設・機械等の整備や優良雌牛の導入

露地野菜の拡大と園芸・畜産の生産性・販売力向上による中山間水田地域の振興(佐々町)

○水田裏作への加工・業務用野菜作付拡大、いちご・畜産の生産性の向上及び茶の高付加価値に取り組み、農業・農村地域の所得向上を図ります。

目指す取組

- 農村の多面的機能維持のための日本型直接支払制度の事務委託の推進
- 水田裏作の加工・業務用野菜の作付拡大
- いちごや畜産の青年就農者を中心とした施設・機械等の整備
- 個性的な茶の産地として異業種交流を通じブランドのPRや6次産業化

繁殖牛放牧と新規就農者定着、6次産業化による「しま」の振興(小値賀町)

○繁殖牛の大規模経営体の育成、新規就農者の定着、地域特産品・軽量農産物の作付け拡大、6次産業化及びグリーン・ツーリズムによる都市農村交流を進め「しま」の所得向上を図ります。

目指す取組

- 未利用地やICT技術を活用した繁殖牛の放牧導入
- 担い手会社の就農支援の充実
- 地域特産品・軽量農産物の作付拡大
- 地域資源を活用した6次産業化の展開
- 観光サイドと連携した農家民泊・農作業体験受入の推進

北部地域

水田フル活用と園芸品目の生産安定、肉用牛規模拡大による平場水田地域の振興(平戸市、松浦市)

○水田フル活用に向けた高品質米生産、WCS用稲作付拡大、加工用たまねぎの産地化、アスパラガス・いちご・ブロッコリー・メロン・ぶどう等の安定生産販売、肉用牛の段階的な規模拡大、集約的な営農システムの構築及び農業参入法人の園芸作物の生産安定・定着に取り組み、農業・農村地域の所得向上を図ります。



水田を活用したブロッコリー栽培状況

目指す取組

- 水稲高温耐性品種の導入による高品質米の生産
- WCS用稲の作付拡大
- 加工用たまねぎの生産拡大
- アスパラガス・いちご・ブロッコリー・メロン及びぶどう等の増収及び低コスト化による生産性向上
- 肉用牛におけるWCS用稲の利用拡大
- 和牛ヘルパー制度・キャトルステーションの活用による労力軽減
- 基盤整備を実施した地域への各種支払制度の推進と事務の一元化
- 新たに入植した農業企業体の園芸作物（アスパラガス・ブロッコリー）の生産安定

水田・園芸・畜産の生産性向上と都市との交流による中山間地域の振興  
(平戸市、松浦市)

○ 高品質米生産、WCS用稲作付拡大、花き（きく・ほおずき）の安定生産販売、茶・みかんのブランド維持及び肉用牛の段階的な規模拡大に取り組み、農業所得の向上を図ります。また、修学旅行を主なターゲットとした農家民泊によるグリーン・ツーリズムを進め都市と農村の交流による地域活性化を図ります。

目指す取組

- 水稲高温耐性品種の導入による高品質米の生産
- WCS用稲の作付拡大
- 花き（きく・ほおずき等）の低コストによる生産性向上と高品質生産
- 茶・みかんの高品質生産
- 遊休農地を有効に活用した肉用牛の放牧やヘルパー制度を活用した労力軽減の推進
- 一般社団法人まつうら党交流公社と連携した農家民泊・農作業体験受入の推進

肉用牛の規模拡大と園芸産地の育成・維持による離島地域の振興  
(平戸市、松浦市)

○ 肉用牛の段階的な規模拡大、葉たばこの産地維持及び園芸品目の作付拡大・新産地育成に取り組み、農業所得の向上を図ります。

目指す取組

- 遊休農地を活用した肉用牛放牧
- 葉たばこの担い手への農地集積による効率的な生産体制の構築
- 園芸品目（ブロッコリー、アスパラガス等）の作付拡大や集出荷体制の整備
- 新規園芸品目による新産地育成



放牧の状況

Ⅲ-2 農林業・農山村の暮らしを支える環境整備

① 農山村の持つ多面的機能の維持

- 「中山間地域等直接支払制度」および「多面的機能支払制度」を活用している組織に対し、組織の広域化や事務委託など組織運営の効率化をすすめ、取組の継続・拡大を図るとともに、未実施地区への新規取組を推進します。
- 農地の有効活用のため耕作放棄地の選別と解消を進め、地域協力によって耕作放棄地の発生を抑制します。



多面的機能支払制度による環境保全活動

② 継続的な鳥獣害対策の実施

- 野生鳥獣による農作物被害については、集落点検による防除対策と捕獲隊編成による捕獲を推進し、継続的に被害防止に取り組む集落を拡大し、農作物被害を低減します。

③ 農山村の暮らしを支える環境整備

- 洪水などの災害による被害を未然に防止するため、老朽化したため池の整備を実施します。

④ 山地災害危険地区の整備着手

- 山崩れ、土石流などの山地災害を未然に防止するため、「山地災害危険地区」のうち、危険度の高いAランクについては、計画的に災害の復旧及び予防対策を進めることで、農山村集落における快適で安全に暮らせる空間を構築します。

⑤ 里山の保全、都市住民との交流

- 県民に対して、森林ボランティア活動や育樹活動等の情報を提供します。
- 里山保全を行う地域住民だけでなく広範な県民が参加する森林ボランティア団体等にフィールドを紹介するなど活動しやすい条件を整備し、森林ボランティア参加団体数の増加を図ります。

	現況	目標	現況年度
多面的機能支払広域活動組織数(組織)	1	4	H26
イノシン被害防止重点指導地区数(地区)	243	311	H26
捕獲隊等の設置による捕獲体制の整備(チーム)	44	60	H26
老朽ため池の整備促進(着手箇所)	22	29	H26
山地災害危険地区(Aランク)の着手数(箇所)	119	137	H26
里山保全活動を行う団体数(団体)	7	13	H26